

研究紹介

危機対応

様々な危機への対応

美祢市の特性を生かした取組から

美祢市立綾木小学校長

佐々木 宏 志



等を仕組み、分かる授業でいじめや不登校の未然防止を推進する。

【C校の取組 児童理解】

- ・学期一回の教育相談前アンケートとして、学校適応感を数値でとらえる「アセス」を活用し、客観的データと日常の観察とを合わせて、児童一人ひとりの支援の方向性を探り、望ましい人間関係の形成と確かな児童理解に努める。

の諸活動を通して、児童生徒のかわり合いや相互理解を深め、いじめや不登校未然防止、中一ギャップの解消に努める。

- ・コミュニティ・スクールによる「地域の学校」として取組を強化する。

四 校長の役割

今回の研究実践を通して、次の四点で校長の役割が重要であることを共通理解した。

(一) 危機意識の共有や計画的な研修体制づくりなどの「危機の予測と未然防止」

(二) 様々なネットワークづくりや信頼関係づくりなどの「情報収集」

(三) 的確な判断、指示などの「意思決定」

(四) 家庭・地域・関係機関への「情報提供」による抱え込み意識の変革

一 はじめに

学校は、安全で安心な環境を確保する必要がある。しかし、子どもたちを取り巻く人間関係の希薄化、いじめ、不登校などは、児童生徒の人格の形成を図る上で大きな課題である。

このことから、より積極的な未然防止に向けた取組を進めることや教職員の危機管理意識を高め、組織として対応していく体制の構築が必要である。

そこで、本市小学校長会では、美祢市の特性を生かした取組を通して、「危機対応」について研究を推進してきた。

二 研究の視点

美祢市の学校、児童の実態から、様々な危機対応に取り組むにあたり、研究の視点を次の三点とした。

(一) 危機管理能力を高める組織づくりと校長の役割

(二) いじめや不登校等に対する未然防止・早期発見と校長の役割

(三) 家庭・地域・関係機関との連携

三 研究の実際

と校長の役割

(一) 組織づくり部会【A校の取組】

- ・緊急事態発生時対応・不審者対応手順の協議・確認
- ・講師を招聘した計画的な避難訓練の実施

・危機管理マニュアルの見直しと周知

・スマイル元気ボードによる児童の出席状況・健康状態の把握

・教室での児童安全管理のため、朝礼の取り止め 等

(二) 未然防止・早期発見部会

【B校の取組 人間関係づくり】

・縦割り班活動を教育活動全般に取り入れた日常的異学年交流の実施

【美祢市内の取組 授業づくり】

・「教えて 考えさせて 定着させる授業」づくりの取組。めあての明確化と教える、考えさせる場面の設定。ペア学習・グループ学習



望ましい人間関係づくり

(三) 家庭・地域・関係機関との連携

部会【D中学校区の取組】

・幼少期から中学校卒業までの十五年間の成長支援、学校・地域が連携した活動の充実・効率化を図るために、幼保小中ネットワーク会議を開催する。

・幼保小連携・小小交流・小中連携

も継続して取組を推進していきたい。

五 おわりに

危機管理に強い組織づくりに大切なことは、情報を共有し、組織で対応することである。いじめや不登校などの問題は、校長のリーダーシップにより、学校全体で解決していくという基本姿勢のもと、未然防止・早期発見・早期対応に努めていく必要がある。研究の成果を生かし、教職員の様々な危機への意識を高めていくことや地区内における支援体制づくりを進め、児童が安心して学校生活を送れるよう、今後とも継続して取組を推進していきたい。